

第 62 回在宅ケアネット渋川 講演会レポート

[日時] 9月6日(水) 19:00~20:15 [会場] プレヴェール渋川

[講師] 医療法人青仁会 青南病院 病院長
はちのへ認知症疾患医療センター センター長 深澤 隆 先生



参加者内訳人数			
職 種	会場	Web	計
医師、歯科医師、薬剤師	9	2	11
看護職(保健師・看護師)	35	6	41
精神保健福祉士・SW・相談員	8	2	10
PT/OT/ST	7	2	9
介護支援専門員	10	11	21
介護職	9	0	9
栄養士・管理栄養士	2	0	2
事務(行政含む)/その他	14	3	17
合計人数	94	26	120

認知症医療介護連携の推進に向けて

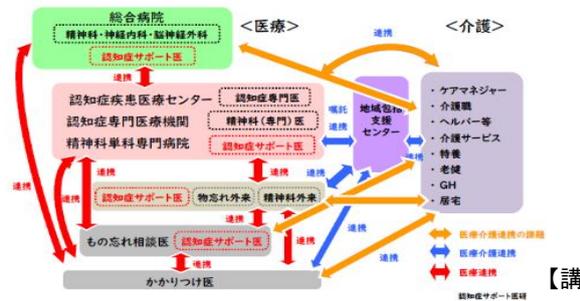
・ 地域の認知症医療と医療介護連携を推進するためには、以下の取り組みが継続的に行われることが重要である。

1. 活動基盤となるシステム
2. 意思統一のための仕組み
3. 当事者や介護者の視点
4. 窓口機能とトリアージ機能
5. 各専門職の対応力の向上
6. 適時・適切な情報共有

『顔が見える』から『腹の中が見える』へ

青南病院 深澤 隆

八戸地域の認知症医療介護連携



【講演資料より抜粋】

今回は「これからの認知症医療介護連携」と題して深澤隆先生にご講演いただきました。八戸市はConnect8(コネクトエイト)というICTを活用した医療介護連携が進んでおり、精神疾患についてもこれを活用しているとのこと。ICT活用の上手く進んでいる地域であると思いました。費用やプライバシーといった問題はありますが、“多職種連携”には役に立つツールであると感じます。また深澤先生は認知症対応力向上研修にも関わっているようで、無料で提供されている事例などの教材についてお話くださいました。「地域活性 フロントアリア」「HAM 人」で検索すると教材が出てくるそうです。病院・診療所・介護施設など地域に認知症の方がいるのが当たり前になっている昨今、皆様にも身近な問題だと思います。ぜひ活用して対応力を身につけたいです。

[参加者の感想 (一部抜粋)]

☆今後の地域での認知症患者さんに対する医療介護の連携は大変重要になってくると思います。その面では今回のテーマの講演はとても有用であったと思います。

[参加者の感想 (一部抜粋)]

☆地域へのフィードバックの難しさを感じた。コネクト8のようなシステムの必要性・維持の必要性を感じた。他職種の連携について自分が考えている以上に幅広くしていく必要があると感じた。

☆認知症疾患医療センター、医療機関に結び付いた方については比較的連携を図りながら支援が出来るのかなと感じる一方で、地域で医療にも結び付かず、支援が入っていない方への支援が課題であると感じました。地域では自治会や民生委員から地域で支援が必要であると気づくケースも多いと思います。そういった方達との連携も出来る仕組みが出来ると良いなと感じました。

☆「コネクト8」とても良い！チーム内で共通の情報・連携ができ、特に医師・病院からの正確な情報は本人や家族を通すとなかなか得られなく、直接お話を伺える機会もないので現実的になると助かると思いました。